

KEIHIN

京浜臨海部 立地企業紹介

1859年の横浜港開港以降、時代の変化に合わせて進化し、日本の産業を牽引し続ける京浜臨海部
横浜の1,600haを超える広大なエリアに、世界に誇る多様な企業が集積しています

100年以上の歴史に培われた技術力を持つ企業や、更なるイノベーションに挑戦する企業など
京浜臨海部の未来を切り拓く企業を紹介します



京浜臨海部の未来像とマスタープランに期待すること

マスタープラン改定にご尽力された京浜臨海部活性化協議会会長の松川氏に、今後の展望について伺いました

京浜臨海部の再活性化を目指す

1997年に策定された京浜臨海部再編整備マスタープランが20年ぶりに改定されました。前回のマスタープランは研究開発機能の強化が柱であり、末広町地区への研究開発機能の集積など一定の効果を挙げました。一方、社会情勢が目まぐるしく変化する中で、今後も京浜臨海部を世界の最先端を走り続けるエリアとしていくために、20年後の将来像を見据え、2030年度を目標年次としたプランを掲げました。

特に早期に新たな土地利用が見込まれる「末広町地区」「守屋町・恵比須町・宝町地区」「山内ふ頭周辺地区」の3地域については、リーディングプランを策定しました。地区ごとの特性を把握した上で、京浜臨海部全体を通した将来像の実現につなげています。

1年以上の長い時間をかけて検討し改定内容をまとめたマスタープランの冊子は、全体コンセプト、地区の現状、立地の優位性などが端的に纏められ、絵や図も多くて分かりやすいと好評をいただいています。

マスタープランの実現には官民一体となることが重要

京浜臨海部では、立地企業による組織体制の構築にも力を入れています。弊社が立地する末広町地区においても「地元である自分たちの声もぜひ反映させたい」と立地企業が集まり、何度も会合を重ねました。会合には横浜市も参加され、企業の声に耳を傾けていただいたことで、自分たちの意見が反映されたマスタープランになったことは、とても感謝しています。今後は、実現に向けて、具体的に動いていくことが重要です。プランの内容は単独企業ではできないことも多く、今後も官民一体となり進めていく必要があると思っています。



京浜臨海部活性化協議会 会長
JFE エンジニアリング株式会社 専務執行役員
松川 裕二氏

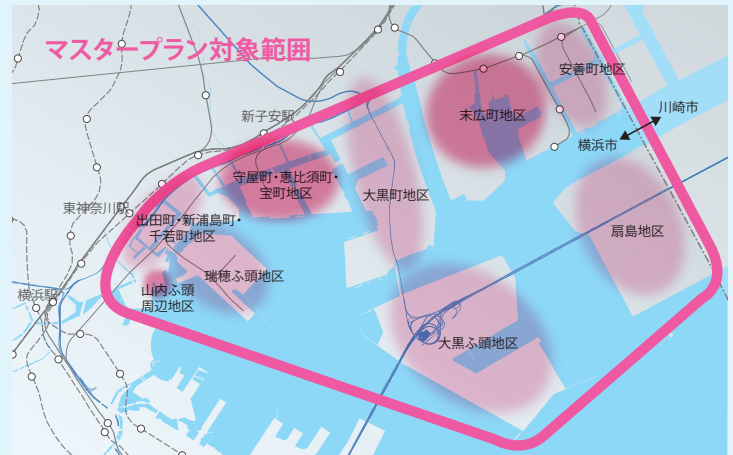
京浜臨海部のメリット

京浜臨海部は港や高速道路が近接し、首都圏や空港にもアクセスしやすい立地であり、大きなメリットがある地域といえます。水際線に高機能なバースを保有している企業もあり、今後の活用が考えられます。

今後、日本の総人口が減少する一方で、首都圏の一極集中は変わらないと考え、首都圏に近い京浜臨海部は人材確保の点でも将来的にわたり優位性があると考えています。

日本のものづくり発祥の地として

日本のものづくりを支えていくという京浜臨海部としての大きな役割はこの先も変わらないと思っています。日本のものづくりはこの地域からはじまっており、「今後もこの地でものづくりを続けていく」と断言する企業の声も沢山聞かれています。そう考えると、今後の京浜臨海部はものづくりを基盤とし、それに付随する機能が集積していくような流れになると考えられます。近隣企業とも協力、連携し合い、さらに賑わいのある京浜臨海部に発展していくことを目指して地域を盛り上げていきたいと思っています。



JFEエンジニアリング株式会社

生活と産業を支えるエンジニアリング企業

弊社は、100年以上前に横浜で創業した浅野造船所をルーツに持つNKK(日本鋼管)と川崎製鉄との経営統合により、両社が培ってきた造船技術、製鉄技術を継承し誕生しました。

「くらしの礎を創る」「くらしの礎を担う」をコンセプトに、人々の生活と産業を支えるインフラ構築・運営を主としたエンジニアリング企業です。

ものづくりのノウハウが強みの源泉

ものづくりの経験やプラントの運営ノウハウを活かし、生活に近い部分のインフラに関するさまざまな分野の事業を自社で行えることが特長です。

今までは「創る」をメインに「設計・調達・建設」の事業を行っていましたが、今後は修繕工事などのメンテナンス、下水等のプラント施設管理、電力などのエネルギー供給、プラスチックや食品を含む幅広い物資のリサイクルなど、「担う」事業をさらに力を入れて発展させていきたいと思っています。

京浜臨海部が発祥の地ということもあり、地域全体で盛り上げ、安心、安全な生活環境、快適な暮らしを創造していきます。



鶴見区内の同社工場で製造されている
トンネル掘削用シールドマシン



1つのまちづくりができそうなほど、多岐にわたった事業を展開

JFEエンジニアリング株式会社 横浜本社

〒230-8611 横浜市鶴見区末広町 2-1
TEL 045-505-7435 FAX 045-505-8902
<http://www.jfe-eng.co.jp/>





横浜の京浜臨海部

京浜臨海部は、横浜港開港以来日本最大の貿易港として発展し、後には、重厚長大産業を中心とする世界有数の工業地帯として、日本の近代化と国際化を牽引してきました。

現在は、製造業・建設業・運輸業など多様な企業が集積するとともに、大学や公的機関の研究施設が立地しており、連携して研究開発や生産を行うことで、新たな技術・サービスを創出するポテンシャルを持った地域として発展しています。

京浜臨海部は、これからも、世界に誇る技術・サービスを発信する産業拠点として、時代とともに進化し続けていくことを目指します。

京浜臨海部の高度な産業集積



京浜臨海部再編整備マスタープラン

(2018年 改定)

世界の産業構造や経済情勢が大きく変化するなか、京浜臨海部が今後も世界をリードしていくためには、最先端の研究開発拠点や成長産業の集積、物流革新に対応した総合物流拠点の形成、明治からの歴史や高度なものづくり技術を活かした魅力ある空間などの実現を目指す必要があります。

そこで、国際競争力強化・魅力向上に向けた2つの柱「グローバル・イノベーション」と「インダストリアル・エンターテインメント」を推進し、併せて都市環境の整備や実施体制の構築を行うことで、20年後の将来像である「多様な人・モノ・地域をつなげ、新たな価値を創造・発信する産業空間」を実現すべく、マスタープランを改定しました。

20年後の将来像

多様な人・モノ・地域をつなげ、新たな価値を創造・発信する産業空間

京浜臨海部再編整備マスタープランの基本戦略

【戦略Ⅰ】国際競争力強化・魅力向上に向けた2つの柱

Global Innovation

「技術革新」により世界をリードする産業空間

- ①「世界最先端技術の創出拠点」の形成
- ②社会を支える「ものづくり技術の高度化」
- ③「新たな成長産業」の集積
- ④「オープンイノベーション」による新たな価値の創出
- ⑤国際競争を勝ち抜く「物流拠点」の形成

Industrial Entertainment

多くの人で賑わう魅力ある「産業観光」

- ①「産業観光」によるブランド力の向上
- ②横浜都心や海とつながる「賑わい形成」

支える

【戦略Ⅱ】都市環境の整備

- ①新たな魅力の創出に向けた都市空間の形成
- ②地域を支える交通環境の充実
- ③社会の持続可能性に貢献する環境システムの形成
- ④災害に強い産業空間の形成

【戦略Ⅲ】実施体制の構築

- ①立地企業による組織体制の構築
- ②行政と地域組織の連携
- ③地域の一体的発展に向けた行政間の連携



マスタープラン
の詳細はこちら

京浜臨海部活性化協議会

京浜臨海部（鶴見・神奈川区の産業道路又は国道15号より海側の工業専用地域及び工業地域の一部）の立地企業で構成する協議会であり、地域課題の解決等のための諸活動を通じて、立地企業間の交流を促進しています。

【協議会概要】

- 会員数：78社・団体
- 活動内容：講演会、総会、会員交流会、視察会 等

京浜臨海部活性化協議会の入会、お問い合わせ
 横浜市経済局企業誘致・立地課
 ☎ 045-671-3485

おいしい胡麻油を作る秘密は 160年続けてきた製造工程にあります

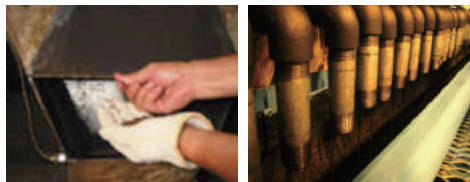
「香ばしさが違う」世界に愛される
メイド・イン横浜

手間を惜しまない伝統製法

「胡麻油はどのブランドも同じ」と思われる方も多のですが、弊社の胡麻油を使っていたと「胡麻の香ばしさが違う」と驚かれます。

その秘密は160年続けてきた製造工程にあります。香ばしい胡麻の香りを出すには焙煎の温度と時間が決め手です。その日の温度や湿度に適した煎り時間を管理、まず胡麻の色を確認し、直接胡麻を食べ、ちょうど良い煎り加減を担当の職人が見極めながら行います。コストや手間のかからない薬剤を使った抽出製法もありますが、化学的製法のため風味が落ちてしまいます。弊社は胡麻を焙煎したあと圧力で搾る圧搾製法で丁寧に搾り、遠心分離機は使わずに静置法でじっくり2週間かけ澱を沈殿させてから、綿布のフィルターで濾過し仕上げています。

通常2日で作れるものを20日以上かけて製造する。本物を知る世界中の料理人から高い評価を得る所以です。



胡麻油に命を吹き込む焙煎技術

濾過され透き通った胡麻油が
蛇口から出てきます



昭和時代のポスター

地域に根差した企業として

安政4年(1857年)、千葉県佐倉市で菜種・落花生・胡麻などの搾油業を創業。明治26年(1893年)「当時から胡麻は輸入に頼っていた為、貿易に便利な横浜港近くへ移転しました。移転後、期待通り胡麻の輸入・輸出を盛んに行えるようになり、2005年には新本社・工場も竣工することができました。

地域に根差す企業として、近隣の小学校から工場見学を受け入れるなど、弊社のファンを増やす取組みにも力を入れています。もっと多くの方に「メイド・イン・横浜」の製品を知っていただくと嬉しく思います。



代表取締役社長 岩井 徹太郎 氏

160年余の歴史がありますが、1.「守」徹底して守る。2.「破」基本をマスターし破る。3.「離」本来から離れて新しいものを築く。という指針の元、伝統を守りながらも、常に新しいことに挑戦してきました。

胡麻・胡麻油を通して「食の安全・安心」、「健康で美味しく高品質な商品」を提供することにより、食文化の向上に貢献することを基本理念とし、手を抜かない製品づくりを徹底しています。

岩井の胡麻油株式会社

〒221-0053 横浜市神奈川区橋本町 2-1-26
TEL 045-441-2033 FAX 045-441-2037
<https://www.iwainogomaabura.co.jp/>



独自の素材・ソリューションで 人々の暮らしを支えます

長年培ってきた技術を結集し
世の中に「無くてはならない」製品を開発・提供し続けます

世界 No.1 のシェアになるまで成長

1907年に我が国初の板ガラス製造メーカーとして創業。以来、ガラス、電子、化学、セラミックスという幅広い素材と技術で、世界中の人々の暮らしに役立つ製品を提供しています。とりわけガラスと化学の技術を融合した製品には自信があり、現在では自動車用ガラスでは世界 No.1※、スマートフォンのカバーガラスでは世界 No.2※のシェアをいただけるまでになりました。

時代に先行するマーケット視点を重視

自動車、電機、住宅など幅広い産業のお客様の声を直接お伺いすることで、その時代のニーズに合った製品開発を実現してきました。常に世の中や市場の変化を敏感に察知し、時代の先を見据えてマーケットの視点を立ち、弊社の持つ多様性を最大限に活用していきたいと考えています。

その成果の1つが、世界で初めて開発に成功した三次元曲面形状の車載ディスプレイ用カバーガラスです。2017年よりここ京浜工場で製造しているこの製品の研究開発は、実は10年前から取り組んでいました。



世界シェア No.1※の自動車用ガラス

車載ディスプレイ用ガラス



オープンイノベーションの協創空間を提供

お客様の商品サイクルが短くなってきた昨今では、開発～生産までのスピードをあげることが最重要と考え「開発・試作・生産」を一か所に集約させるため新研究棟を2020年、京浜工場に誕生させます。

今後、京浜工場は、新たな価値を生み出すマザー工場、開発拠点としての役割を担っていきます。

この研究棟は今までのようなクローズな空間ではなく、社内外・地域の方にも関わっていただき、時代に先行したニーズをいち早くキャッチし弊社の技術とマッチングできるような空間にしたいと考えています。

弊社と皆様がジョイントし新しいものを生み出していけるオープンイノベーションの空間として新研究棟を使っていただきたいと思います。

※AGC株式会社調べ/2016年度概算データ



執行役員 工場長 井上 滋邦 氏

弊社は昨年、旭硝子からAGCに社名を変更いたしました。企業としての発祥は「板ガラス」の製造で、当時「板ガラスの国産化は不可能」とされていましたが、この常識に果敢に挑んだのが創業者の岩崎俊彌です。その常識を覆す精神は「新しい何かを生み出し、プラスの価値を提供していく」という現在の経営方針に繋がっています。

横浜で約100年、地域への貢献を含め価値を創造してきました。今後100年、さらにその先も地域全体で皆様と共にイノベーションを作っていきたくと考えています。

AGC株式会社 京浜工場

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町 1-1
TEL 045-503-7100 FAX 045-504-9635
<https://www.agc.com/>



保管・輸送サービスと 研究開発スペース賃貸を一ヶ所で

JR新子安駅から徒歩10分 羽田空港から車で20分
このロケーションが多様なニーズへの対応を可能にしています

複雑な流通加工にも対応する、豊富な物流ノウハウ

日本の資本主義の生みの親である澁澤榮一が、「物流が、産業・経済発展の鍵となる」という信念のもと、明治30年に創業したのが、弊社の前身企業である澁澤倉庫部です。

現在は、倉庫業、国内外の陸・海・空にわたる物流事業および不動産事業を展開しており、そのなかでも当営業所は、貿易手続業務・倉庫保管・全国配送など物流関連業務全般を一ヶ所で請け負うことができるのが大きな特徴です。

近年は倉庫といっても、保管するだけではなく、流通加工サービスへの需要が増えています。当営業所でも、高級輸入化粧品のラッピングや特殊製品の検品など、ロボットでは行えない繊細な業務を人の手でっております。

それらを支えるのは、長年の経験に基づく弊社の検品加工・安全管理・出荷管理のノウハウです。



小さな異常も見逃さない 現在、2号館を着工、テナントを募集中
熟練スタッフによる検品作業

研究開発フロアを併設した 施設建設による資産活用

2014年に新たに建設した当営業所1号館は、京浜臨海部という立地に着目し、弊社初の取り組みとして物流センターの上層部に賃貸型の研究開発スペースを設けているのが特徴です。

当施設は、様々な研究開発機能に対応できるよう階高を一般的なオフィスビルの約2倍にあたる7~8メートルのスケルトン構造とし、電気、水道などのインフラ設計を含め、大空間を自由にお使いいただける仕様になっています。また、トラックが横付けして研究機器をフロアまで直接搬入できるよう大型エレベーターを備えているほか、階下の物流センターと共同事業展開ができることも特徴です。

様々なニーズに対応できる優れた立地

当営業所は横浜港や首都高ICにも近接していることから国内外の運送に非常に適した立地です。また、住宅街や駅にも近いことから流通加工の人材確保面でも優れております。更に、都心・羽田空港からアクセスしやすく、海外からのお客様も多い研究開発施設の入居テナント様からは非常に好評をいただいております。

当該立地を活かした物流関連業務や、流通加工業務を一ヶ所で行えるというサービスへの需要は今後も益々拡大すると自負しています。



横浜支店 恵比須町営業所 所長 井上 雅博 氏

新設する研究開発施設2号館の入居に関する企業様からのお問合せは、前回募集時よりも格段に増えており、需要増加を実感しています。今後は研究開発やオープンインベーションを展開する周辺企業様と連携を図りながら、この流れを盛り立て、賑わいに満ちた新子安・恵比須町地区のまちづくりに貢献したいと考えています。

澁澤倉庫株式会社 横浜支店 恵比須町営業所

〒221-0024 横浜市神奈川区恵比須町1
TEL 045-441-7931 FAX 045-441-7789
<https://www.shibusawa.co.jp/>



多様な製品を開発し 成長を続ける化学メーカー

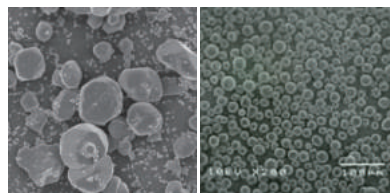
当社が提供する素材・部材は、自動車、スマートフォンから
水道水まで日々の生活・街なかで使われています

幅広い分野の技術を活かしグローバルに展開

当社は国内ではじめてアルミニウムの商業生産を開始し、また国産法による硫酸肥料生産に最初に成功するなど、創業以来、社会に有益な素材を提供してまいりました。これらの技術を発展させ、現在は石油化学、化学品、無機、アルミ、エレクトロニクスといった幅広い分野で事業を展開しています。

「すべてのステークホルダーを満足させる」ことをミッションに掲げ、技術にこだわり個性的な製品群を提供しています。

当社は国内20、世界41の生産・販売拠点を持っています。横浜事業所ではセラミックス製品の開発・製造をするほか、リチウムイオン電池材料の研究開発などを行っています。すべての事業で世界最高品質を目指しており、当社の技術は世界中のお客様に高く評価いただいています。



横浜事業所で開発・製造する放熱フィルア
様々な粒径で効率よく熱を伝える

事業の「融合」、社内外の「融合」で付加価値を創出

今後は、当社が大樹の枝葉のように展開してきた幅広い事業・技術を「融合」させ、新たな価値の創造に力を入れていきます。

2019年1月に立ち上げた自動車複合材料プロジェクトでは、当社の強みであるアルミを中核として、幅広い素材と技術、それらを支える人材を社内の事業領域を超えて融合し、新時代に求められる材料開発を行っています。

さらに、2022年春には横浜事業所のある神奈川区恵比須町に「融合の舞台」をコンセプトとした研究開発拠点を開設予定です。

京浜臨海部の持つ高い交通利便性を活かして、国内外の多様な人材・技術の交流を促し、オープンインベーションやベンチャービジネスを含む新たな技術やアイデアを社内外から取り入れることで、融合・共創を加速させ、当社と地域の未来を担うグローバル中核開発拠点としていきます。



研究開発複合施設「融合の舞台」イメージ図



最高技術責任者 (CTO) 田中 淳氏

当社の事業内容は多岐にわたりますが、確かな技術力を基に競争力のある製品を数多く揃えています。自動車、スマートフォン、化粧品原料、水道水など身近なシーンにおいてもさまざまな製品の素材・部材として使われています。

最終製品として表には出ることほとんどありませんが、サポーターインダストリーとして社会を支え、生活を豊かにする重要な産業であると自負しています。今後も技術力を磨き、付加価値の高い製品を提供してまいります。

昭和電工株式会社 横浜事業所

〒221-8517 横浜市神奈川区恵比須町8
TEL 045-453-5111
<http://www.sdk.co.jp/>



東南アジアの油脂原料を、丁寧に精製し加工 人と地球にやさしい製品づくり

加工油脂事業をメインに 食用油を使用した石けん・化粧品の製造・販売まで展開

人にやさしく、地球にやさしさを理念に

弊社は「食用加工油脂」「石けん・化粧品」「飼料」の3つの事業で構成されています。主力事業は加工油脂を使用したアイスクリーム、フライドチキンなどで、食品・乳業メーカー・外食産業向けに製造販売しています。ヒマワリ油など食用油を使用した石けん・化粧品、洗剤なども開発し、さらに循環型の家畜系飼料事業にも進出するなど、加工油脂から派生する事業を展開しています。

弊社の石けん・洗剤は自然由来の成分のみを使用しているため、使用后、自然界の浄化作用により、早く分解されます。そのため、川や海、湖を汚しません。また、詰め替え容器を促進するなど、原材料から販売まで全てにおいて環境に優しい製品作りを心掛けております。



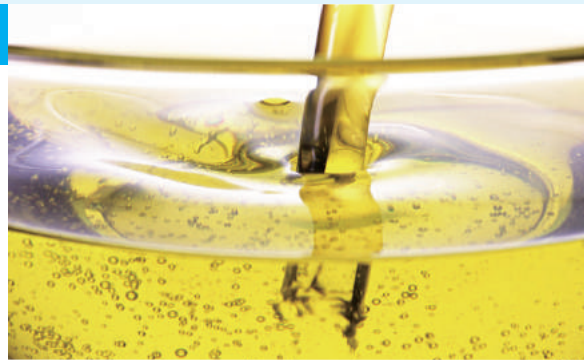
無添加だからお口に入ってしまったとしても安全

1939年に石けんの生産を開始。「バックスナチュロン」等の自社ブランドを立ち上げました。

天然の植物油を主原料としているため、通常1回の乳化を弊社は2回行い、手作り感を大切に「練り製法」で2か月かけて固化するなど、製造方法にもこだわっております。そのため、弊社の商品は人と環境にやさしい洗浄料として親しまれるほか、石けん歯磨き粉は磨いた後に食事の味を阻害しないと40年以上のロングセラー商品になっています。

無料ワークショップも開催

社会貢献の一環として、毎年1000人以上の小学校、病院、施設等の方に講習を行っています。石けん工場の見学や、石けんの成り立ちや石けんがどのように作られるのかをワークショップ形式で体験していただくなど、石けんを身近に感じていただいています。



代表取締役社長 中山 悟 氏

2019年7月、この地で創業し100周年になります。弊社では、社員数は230名ほどですが、親・子・孫と世代を超えて勤めている方が多くいます。大半は神奈川県在住で、近隣の小学校を卒業された方も沢山います。

弊社の製品が高品質なのにリーズナブルだと口コミで広がり、親・子・孫の三代までご使用いただいている家族も多くいらっしゃいます。これからも世代を超えて受け継がれ、横浜を代表する企業として努力していきます。

太陽油脂株式会社

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町 2-7
TEL 045-441-4951 FAX 045-441-1857
<https://www.taiyo-yushi.co.jp/>



創業111年の建設技術で 人と海を豊かにする

時代の変化を先取りした技術で 地域発展に貢献することを使命としています

時代のニーズに応じた海洋工事技術を開発・提供

大型船が横付けし船積み荷揚げをする欧米の港湾に比べ、遠浅で荷役作業が困難な東京湾に国力の差を感じた創業者の浅野総一郎が、明治後期、安田善次郎や渋澤栄一の資金協力を得て弊社の前身企業（鶴見埋立組合）を創設しました。その会社による埋め立て事業により作られたのが京浜工業地帯です。創業以降、弊社はこの地から海洋工事を主軸とした事業を行ってきました。

海洋工事で培ってきた豊富なノウハウやネットワークを基に、お客様のご相談に迅速かつ的確にご提案をする場として40年前より「海の相談室」を開設しています。当窓口は日本の建設会社では珍しい海専門の相談窓口で、個人から企業・官公庁まで幅広くご活用いただいております。

また、弊社は大林組と共同で、次世代エネルギー源として今後拡大が期待される洋上風力発電所の建設に使用する作業船（SEP）の建造に着手しました。このSEPを武器に、わが国における洋上風力発電建設のパイオニアを目指して取り組んでいます。



埋立で生まれた安曇町の全景（昭和初め）



技術研究開発センター（鶴見区安善町）

多機能研究施設で未来につながる技術を開発

2016年には弊社設計施工による新たな技術研究開発センターを、発祥の地である鶴見区安善町に開設いたしました。建設会社に求められるニーズが年々多様化する中で技術レベルの発展・向上のため最新設備を導入した研究施設です。この最新の施設・設備を有効活用することにより、効率的で確実な社会貢献に資する技術の開発に日々取り組んでおり「横浜鶴見から全国へ、世界へ、そして未来へ」通じる弊社の技術の礎を担っています。

また、研究機能にとどまらず、地域の防災拠点やショールームとしての役割も兼ね備えているほか、地域の小中学生の社会見学や建設業界を志す学生の見学受け入れを行うなど、地域に開かれた技術センターです。



洋上風力発電所建設の作業船 SEP のイメージ図



執行役員横浜支店長 本多 将人 氏

弊社の創業者が築いた京浜工業地帯が世界有数の工業地帯として発展していることを嬉しく思います。

今後は、歴史の長い工場が集まるこの地に土木・建築の技術開発拠点を置く企業として、海上交通インフラの建設による地域の付加価値創造や経年構造物の補強・維持管理といった側面から、周辺企業様の課題解決や更なる高度化を確かな技術と信頼で支えていきたいと願っています。

東亜建設工業株式会社 横浜支店

〒231-8983 横浜市中区太田町 1-15 関内東亜ビル
TEL 045-664-1331 FAX 045-664-0900
<https://www.toa-const.co.jp/>



素材と機能の可能性を追求し、 化学の力で 新しい幸せをあなたへ届けます。

産業と社会の基盤を担う高品質な製品で
安全、安心、信頼を提供し続けます

一般向けから産業向けまで幅広い製品展開

弊社はユニークな TVCM でも話題の瞬間接着剤アロンアルファ®を製造している企業です。

化学工業・自動車分野・塗料・抗菌材などに使われる産業用の原材料から化学メーカーの開発力を駆使した消費者向け製品まで、社会を支える幅広い製品を展開しています。

極限まで純度を高めた最先端の製品を世界に供給する

横浜工場の主力製品のひとつは液化塩化水素です。1963年に当工場の前身である鶴見曹達㈱が日本初の製造販売を行いました。現在ではその機能を引き継ぎ、本製品のマザー工場としての役割を担っています。

本製品は医薬品や農業など様々な用途で使われていますが、近年は半導体の材料として純度を極限まで高めた高純度液化塩化水素の需要が年々高まっており、品質や安定供給のレベルをさらに向上させ生産体制を強化するため、最新機器を備えた新棟を建設中です。

当工場では高純度品分析技術を高め、品質管理を徹底しております。その信頼性から、海外を含め多くの企業様からお引き合いいただいています。今後も、お客様の要求に応えられるよう更なる品質向上に取り組んでまいります。



横浜工場の製造設備

ライフラインに直結する製品を 安定的にお届けする

当工場のもうひとつの主力製品が、上下水道やプールの除菌、廃水処理、バラスト水浄化等に使用される次亜塩素酸ソーダです。当工場では生産する次亜塩素酸ソーダは、関東全域を中心に幅広い地域で使用されています。

上下水道の除菌とひとくりに言っても、1種類の製品を量産するわけではありません。湧き水の豊富な地域と人口密集地では、除菌に要する成分・濃度が異なります。当工場では各地のオーダーに沿った細やかな製造に対応し、更に365日絶え間なく安定供給する体制を構築しております。

2011年の東日本大震災時も、当工場は復興に向けてライフラインを支え続けることを最優先とし、速やかに操業を再開、サプライチェーンを確保して次亜塩素酸ソーダの製造、供給を続けました。



瞬間接着剤のアロンアルファ®



安心、安全な水の提供を支える次亜塩素酸ソーダ



横浜工場長 山田 修三氏

弊社は今年で創立75周年を迎えます。化学のオドロキ、未来のトキメキを感じることができる、特色ある製品を永く愛していただけるよう品質向上、安定供給に努めます。

また、化学メーカーとして企業の社会的責任(CSR)を果たすべく、工場の安全、安定操業を最優先に、コーポレートガバナンスの強化、従業員のワークライフバランス充実、地域社会との共生など様々な活動を継続してまいります。

東亜合成株式会社 横浜工場

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町 1-7
TEL 045-503-7300 FAX 045-502-6960
<http://www.toagosei.co.jp/>



ガラス加工技術で培ったノウハウを活かした 光とエレクトロニクス技術の結晶

優れた気密性・耐久性のガラスキャップで
製品を影から支える「縁の下の力持ち」です

ガラス加工、ガラスと金属を封着するスペシャリスト

弊社の特徴は唯一無二のガラス関連技術です。真空管用ガラス製品で培ったガラス材料技術と金属・ガラスの封着技術を基に、エレクトロニクス分野に進出しました。

現在は、高品質の気密封着技術を用いたオプトエレクトロニクス事業、職人の手仕事によるガラス加工事業、様々な電子製品の基板に用いられるガラスセラミクス事業を行っております。

「企業は人なり、商いの基は品質にあり、革新なくして事業なし」という山村グループの企業理念を基に、人材を大切に、常にイノベーションに挑みながら、高品質な製品の生産に取り組んでいます。

今後は自動車の自動運転用センサーなど進化が求められる分野のニーズを取り込み、時代の変化に合わせて、弊社も一緒に成長していけたらと思っております。



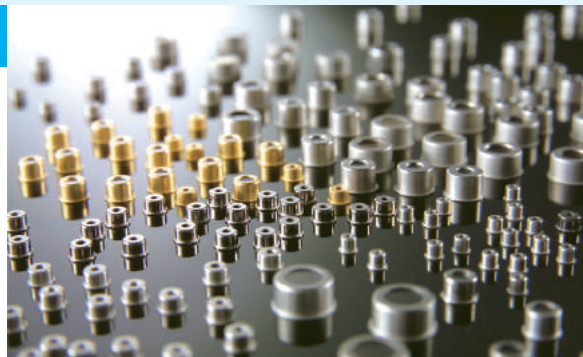
フラット、ボール、溶融、非球面、斜めにカットされたスタンデッドタイプなどがあり、ご要望に合わせカスタマイズも可能

特殊ガラス加工で培ったノウハウを活かして

京浜臨海部にある横浜工場ではオプトエレクトロニクス事業を行っており、半導体レーザーのチップ保護用キャップを生産しております。

フラット型、ボール型など様々なタイプを生産しており、CD、DVDの読み取りセンサー部分や光通信における電気信号と光信号の交換ユニット内部に組み込まれています。1円玉の5分の1位小さいものもあるキャップの中には、ガラスと金属という熱によって膨らみ方が異なる素材に高气密で封着する弊社の技術/ノウハウが凝縮されています。

高品質を保つために外観検査と気密性検査を行っており、検査機器も自社で開発するなど、品質には徹底的にこだわっております。



代表取締役社長 店橋 弘氏

1949年の創業以来、ものづくり企業としてここ神奈川の地で歩んで参りました。地元で生まれ育った社員も多いです。また、近隣企業様との連携も積極的に行うほか、地域の行事にも協力しています。

弊社の製品は直接皆様の目に触れる機会がありませんが、日々利用する最終製品の中に、なくてはならないものとして使われています。

ものづくりを通して皆様に愛される企業として社会に貢献できるよう、努力していきます。

山村フォトニクス株式会社 横浜工場

〒221-0024 横浜市神奈川区恵比須町 7-8
TEL 045-441-8271 FAX 045-441-6362
<https://www.yama-ph.co.jp/>



ガラスと金属の気密封着技術



職人の技が光るガラス加工

掲載企業MAP

- ① 岩井の胡麻油株式会社
- ② 太陽油脂株式会社
- ③ 昭和電工株式会社 横浜事業所
- ④ 澁澤倉庫株式会社 横浜支店 恵比須町営業所
- ⑤ 山村フォトニクス株式会社 横浜工場
- ⑥ 東亜合成株式会社 横浜工場
- ⑦ AGC株式会社 京浜工場
- ⑧ JFEエンジニアリング株式会社 横浜本社
- ⑨ 東亜建設工業株式会社 技術研究開発センター

